

指定校番号	29049	学級活動		生徒会活動	○	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	---	------	--	------

## 平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原中学校	校長	宮里 浩寧	生徒指導主事	向井 大
-----	-----------	----	-------	--------	------

**取組事例名 『児童会と生徒会による合同あいさつ運動・交流会』****取組のねらい『キーワード つながり』**

- ・小学生と中学生がふれあう機会をつくり，中1ギャップ解消につなげる。
- ・児童会と生徒会の交流を深め，お互いの取組の良さを認め合い，今後の活動の発展につなげる。

**身に付させたい資質・能力**

- ・思いやりをもって相手に接する力
- ・自他の良さを見つけ認める力
- ・相手に分かりやすく説明をする力

**取組の具体的内容『キーワード 良さを認め合い，お互いの発展へつなげる』**

本校は主に2つの小学校から児童が入学してきます。生徒会執行部の生徒は母校の合同あいさつ運動と交流会に参加します。

## ○合同あいさつ運動

はじめにお互いに自己紹介を行い，生徒会から児童会に向けて元気が出るメッセージを送ります。その後，各小学校の正門で20分間あいさつ運動を行います。

## ○交流会

児童会と生徒会がお互いに学校行事や生徒会・児童会活動の取組の実践発表を行います。お互いの取組の良さを認め合い，関心のある活動については質疑応答を行います。その後，来年度の中学校入学に向けて不安に思っていることや疑問，心構えなど，事前に6年生から募集したものを児童会が代表して質問します。それに対して生徒会が自分の経験を踏まえて答えます。

**取組の課題・創意工夫『キーワード 児童・生徒の直接的な関わり』**

小中連携の1つとして，生徒指導主事等が小学校に訪問し，中学校の様子や心構え等を児童に講話することがあると思います。しかし，教師の言葉よりも中学生が実際に感じているありのままの思いを自分の言葉で伝えることで，小学生にはより伝わります。また，小学生は中学生の姿にあこがれを持ち，目指す姿を具体的にみることができます。このようなことから，児童・生徒同士の直接的な関わりや会話を重視しています。

### 取組の成果（効果）『キーワード 安心と自己肯定感』

- ・小学校と中学校お互いが取組の良さや課題を確認することができるのと同時に、お互いの活動を取り入れることにより、9年間通した取組にすることができます。
- ・中学校生活への不安や疑問、心構えなどについて、中学生から経験を踏まえた話を聞くことにより、小学生は安心感を持つとともに心構えや見通しをもつことができます。
- ・中学生は先輩として、後輩に対して自分の経験を踏まえたアドバイスをすることにより、自己存在感や自己肯定感を向上させることができるのと同時に、思いやりをもって関わる態度が身に付きます。
- ・小学生は、中学生の姿にあこがれを持ち、目指す姿を具体的に見ることができます。



### 今後の展開『キーワード 深く広い関わりへ』

- ・児童会と生徒会とに限定した活動なので、対象を6年生全体へと広げていきたいです。
- ・この活動に参加した生徒会は3年生なので、6年生が入学した時には卒業しているため、新生徒会（2年生）も関わりをもつことができるようにしていきたいです。

### 他校へのアドバイス『キーワード 小中連携の充実』

中学校において目指す学校像や生徒像の実現のためには、中学校だけの努力や取組では難しいと考えています。小学校と中学校が同じ方向を向いて教育活動を行うことで目指すところに近づくと感じています。今後も児童・生徒同士の直接的な関わりや会話を重視した取組を行い、教職員だけでなく、児童と生徒も同じ方向を向いて学校生活をおくることができるように、小中連携の充実を図っていきたいと考えています。